

TAKARAMONO NEWS

タカラモノ

News

Vol.

6

2009.10

勝負の世界を 生きる職人

特集：ふくしまでがんばるひと③

合資会社 河野テーラー

三代目 河野 正典さん

すべては勝負のために。

「非効率」は「無駄」ではない



決められた将来なんて！

店を継いで十年。小さい頃から店が遊び場だったものの「将来が決まってるのがイヤだった」と語るように、三代目になることには抵抗があったとのこと。添乗員を目指し、仙台YMC A観光課を卒業後、東急観光現・トップツアーに入社。盛岡で七年、国内外を飛び回り営業や見積もりなど何でもかんでもやった。楽しくもあり辛くもあつた日々だった。そして結婚やがて長男が生まれると、自分はこのままでいいのか？心にしこりな疑問の芽生え。そんな折、岩手競馬場近くの繁華街で関係者と出会い、自身の環境を話すと「河野テラーさんとこの？」そりや、家に戻って継がなきゃ」と背中を押された。それでもまだそんな気分にはならなかつたけれど、福島にはお墓もあるし長男だし……、そんなことを考えているうち、家業への思いが知らず知らず降り積もり、その気持ちを奥さんに伝えると「いいよ」と言ってくれた。二十七才だった。

デビュー作はぞうきん

帰っては来たものの洋裁経験はほぼゼロ。基本である並縫いから始め、帰宅して

アナログな柔らかなさを纏った仕事場。



からもひたすら並縫い。並縫い並縫い、並縫いの日々。そうして完成させた最初の作品は「ぞうきん」だった。一人前になるまでに五年かかると言われる勝負服。二代目は「仕事は見えて覚えろ」だったが二代目は違った。「まずは見て自分の教科書を作れ、それで分からなかったら一回だけ聞け」。帰ってきて二ヶ月で二代目が倒れた。二代目の穴を埋めるため職人の方たちに協力してもらい必死で仕事を覚えた。徐々に腕を上げ、ついに職人から褒められるまでに上達。「形になるのがすごく楽しいんです」。三代目は嬉しそうに語った。

いいものをつくる条件

河野テラーにはいくつかの決まりがある。そのひとつが「残業をしない」こと。三代目曰く、「疲れているといいものは作れないんですよ。仕事に没頭することだけがストイックと呼ぶのではないのです。もうひとつのきまりは、「最初から最後まで一人の職人が作る」ということ。ひとつの勝負服を作るのに複数の手が入ることは縁起が悪いというのがその理由。流れ作業のほうが効率的なのは百も承知それでも敢えて非効率を選ぶのは、命をかけた勝負への思いを、最後のひとしづくまで込めたいという気概の現れなのです。

右：三代目が作った「自分の教科書」
三代目が仕事を覚えるために作ったというもの。駆け出しの頃の汗と涙がたくさん詰まっている。

勝負服ってどんな服？



みなさん、勝負服をご存じでしょうか？
いえいえ、気になる異性との逢引きに着るおめかし服のことではありません。勝負服は、競走馬に騎乗する人、つまり騎手がレースで着る服のこと。騎手はもちろん、馬主、調教師、そして勝馬投票券片手に拳を突き上げ雄叫ぶ人、三者三様の『勝負』に彩りを添える重要なアイテムです。競馬に興味がない方もテレビ中継などで二度三度は目にしたことがあるかと思ひます。そうです、あの、色とりどりの服のことです。

そんな勝負服を仕立てているのが、福島競馬場を鼻の距離に置く大正十三年創業の老舗「合資会社 河野テラー」。シンプルな白い建物にくぐり、まず目に飛び込んでくるのは木製の大きな作業台。その、しっとり落ち着いた光沢は長いあいだ大切に使われてきたことを感じさせ、隣にたずむミシンもいわゆる最新回路を備えた電子ミシンではなく、質実剛健、故障時にも自家修理など融通の利きそうなもの。そんな、全体的にアナログな柔らかなさを纏った仕事場にお邪魔し、

三代目・河野正典さんにお話を伺ってきました。

始まりはズボン

「元々は『河野ズボン店』だったんです」と三代目が語るように初めから競馬服を手がけていた訳ではなく、近辺に宿がないがため宿舎として競馬関係者が出入りしていたことが縁となり「乗馬ズボンを作れないか？」との打診があったのだそう。それが口コミで広まったのち、絹の産地が近いことや近所に染め物店があるという豊かな環境にも後押しされて、勝負服を手がけることになったのだとか。ではここでひとつ、勝負服についてお話ししましょう。

勝負服は競馬発祥の地であるイギリスで誕生。我が馬が何番手を走っているか知りたい馬主や貴族が、騎手に色付き服を着させたことが発端。ゴール前でもつれた場合の写真判定の材料にもなるそう、まさに勝負を左右する重要な服なのです。ですから、色・デザイン共に自由とりどりのようであっても、勝手気ままに作るのには厳禁。十三の基本色と約十七の図柄の組み合わせのみでデザインしなければならず、柄の大きさや間隔についてもセンチ単位の厳しい規定があるそうです。現在、JRAに登録されている勝負服は約二千種類。こういった規定が出来たのは馬主さんが増え始めた昭和半ばごろで「昔は富士山模様の勝負服があったみたいですよ」と笑いながら三代目。余談ですが、有名人ブランドのエルメスも勝負服を仕立てているのだとか。



とある年の有馬記念。三代目にとっ
ては忘れられないレースだという。
『グラスワンダーが二気に外から伸び
てきた！グラスワンダー！ツルマルツヨ
シー！そしてスペシャルはグラスのアウト
コースに出ようとしている！グラスの
アウトコースに出た！ツルマル
ツヨシー！そしてグラスワン
ダー！グラスワンダー！き
たつ！内のほうでゴーイング
頑張っている！ゴーイングス
ズ力頑張っている！ツルマル
ツヨシー！ツルマルツヨシー！グ
ラスワンダー！グラスワン
ダー！来た！外のほうからス

忘れられない 有馬記念



we love KEIBA.

競馬界を 盛り上げたい。

いろんな人に
見てもらいたい

「競馬界を盛り上げた
い。競馬界をも例外なく
襲う不況、その中で自分
に出来ることは何か？ずっ

ベシカル！外からスペシャル！しかしツ
ルマルも頑張っている！ツルマル頑張っ
ている！ティエムか！ティエムもきてい
る！ツルマルとそして外のほうから！
外のほうから最強の二頭！やっぱり最
後は二頭だった！最後は二頭！
最後はやはり、最強の二頭！...もの
すごいレースですっ!!」
一着グラスワンダー。レース史上に残
る接戦、そして史上三頭目の有馬記
念二連覇の晴れ舞台を飾ったのは、三
代目が初めて仕立てた勝負服。「あの
ときは本当に嬉しかったですね。馬
主・調教師・厩務員・装蹄師など全ス
タッフがレースに出るまで全力を尽く
す。その思いを一手に背負い命がけで
馬に乗る騎手。だから生半可な気持
ちでは作れない。それ故に「自分の服
で勝った時は感動する」のだそうだ。
三代目の熱い言葉の勢いを借りて私
の心も奮い立った。



合資会社 河野テラー

〒960-8133 福島市桜木町2-3
TEL/FAX: 024-534-2245
www.myfavorite.bz/kounotera/pc/

と考えると続いていた。その皮切りは、福
島競馬場とのコラボレーション。来場
者にオリジナル勝負服しおりを配布。
毎日先着五十名だったが連日品切れ
となった。同じく、福笑いの要領で身
頃・腕・柄のパーツを自由にべたべた組
み合わせて楽しむオリジナル勝負服パ
ネル作成も開催。大人も子供も楽し
めるイベントとして好評を得た。その
ほかミニチュア勝負服なども手がけて
いる。
すべては、「競馬に興味のない一般の
人にも見てもらいたい」ためである。い
ま競馬場は、気の荒い人たちがピリピ
リたむろするタバコ臭い場所ではな
い。青い空の下、芝生に腰をおろし馬
が走るのを見に行く。そんな場所と
してのイメージも定着してきた。「せっ
かく地元にあるんだから競馬をもっ
と身近に感じて欲しい」。しみじみと
語る三代目は、競馬と人、そして、人
と人とをつなぐために今日も真剣勝
負に挑んでいる。



タカラモノニュースは、お客
様の「楽しい、ウレシイ」に役
立つ情報提供を目指して、
年4回発行しております。
ご意見ご要望など、なんでも
お気軽にお寄せください。



発想から発送までお客様のニーズにお応えします。

タカラ印刷株式会社

〒960-8141 福島県福島市渡利字絵馬平86-9

TEL. 024-526-4303 FAX. 024-526-4302

E-mail takara@inaka.co.jp http://www.takara.inaka.co.jp/



RB-Q04008



適用範囲: 印刷・製本・社会調査